

授 業 科 目 名	住環境調整工学	担 当 教 員 名	辻原万規彦 細井 昭憲	履 修 年 次	3年
<p>○ 概要及び到達目標</p> <p>環境調整の立場から、私達を取り囲む居住環境を如何に創り出していくかについて考える。対象は、私達が実際に住まう住宅内部、もしくは住宅周辺の環境とし、関連する様々なトピックを取り上げ、講義する。</p> <p>受講生の到達目標は、私達を取り囲む居住環境をより良くするためには、環境調整の立場からだけでも、数多くの問題を考える必要があることを理解し、自ら進んで問題解決に取り組む姿勢を身に付けることである。</p> <p>○ 履修上の注意</p> <p>関連する以下の講義とともに履修することが望ましい。</p> <p>人間環境健康原論，環境設備原論，環境設備システム学，地域環境調整工学講義の進め方の詳細や細かい注意事項などは，第1回目のガイダンスで説明する。</p> <p>○ 使用教材</p> <p>講義中に配布するプリント，スライド，ビデオなど</p> <p>○ 参考文献（書名、著者名、価格等）</p> <p>環境工学教科書研究会編著『環境工学教科書 第二版』（彰国社，3,675円）</p> <p>建築設備学教科書研究会編著『建築設備学教科書 新訂版』（彰国社，3,780円）</p> <p>その他，講義中に紹介する。</p> <p>○ 単位認定の方法及び基準</p> <p>出席状況，適宜出題するレポートの結果を総合して，評価する。定期試験は行わない。出席点が約2～3割，レポートが約7～8割として評価する予定。</p> <p>○ 授業計画</p> <p>2名の担当者によるオムニバス形式で，できるだけ多くの話題を提供することを目的として，主にスライドを使用し，以下のような内容の講義を行う。なお，配布プリントには，自学自習ができるよう数多くの資料や参考文献を掲載する予定。なお，講義の順番は，入れ替わる可能性がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（1回） <p>講義全体のガイダンスを行う。また，住環境調整工学の枠組みについて概説する。</p> 2. 住環境の調整の歴史（3～4回） <p>これまでに人々が住環境をコントロールしてきた歴史について考える。暖房や冷房の歴史などについて解説しながら，今後の住環境調整のあり方を考察する。</p> 					

3. 環境デザイン学と環境心理学（1～2回）

近年、様々な場面で注目されている環境デザイン学と環境心理学について考える。それぞれの内容を解説しながら、人、特に人の心理と住環境の関係について考察する。

4. 「品確法」の問題（3～4回）

2000年4月に制定された「住宅の品質確保の促進等に関する法律」の内容と派生する問題について解説しながら、建築物の性能について考察する。

5. 建築のライフサイクルマネジメント（3～4回）

建築の耐用年数やリノベーション（改善）、ライフサイクルマネジメント、ライフサイクルコストなど、建物の使用や管理の際に問題になる事項について解説しながら、これから建築のあるべき姿について考察する。